

する。コミュニケーションへの意欲を育てるためにも、「いいところを積極的に評価する」ことを生徒に理解させ、クラスの雰囲気を良くしたい。

## 5 実践授業

授業は、平成7年1月12日、富岡第二中学校の1年生2クラス、計68名の生徒を対象に行った。題材は、“Lesson 11 昨日、何をしたの”であり、笠井淳一教諭に指導を依頼した。

### (1) 場面設定について

生徒に次のような具体的指示を与えた。

- ①配役を決めよう。
- ②状況を設定しよう。
- ③その状況に合う1文を付け加えよう。
- ④相手の目を見て言えるように練習しよう。
- ⑤聞いている人はいいところを見つけよう。

教師から場面や人間関係など、いくつか例を提示したが、生徒たちは意欲的に自分たちのオリジナルなものを考案した。次にいくつかの例を紹介する。

#### 《場面》

- ・野球の試合を見ながら・学校の休み時間
- ・コンビニストアで　　・学校の帰り道
- ・トイレに入っている人とそれを待つ人
- ・恋人同士が公園で、その他

#### 《人間関係》

- ・友達、クラスメート　・昔の友達
- ・刑事と犯人（パトカーの中で）
- ・ドナルドとミッキー
- ・兄と弟、姉と妹、その他

おもしろい場面を考えるあまり、時間がかかりすぎるグループもあった。今後生徒から出されたアイデアを累積し、そこから選択させるなどの

工夫も考えられよう。ただし、「いいものを作ろう」とする生徒の前向きな姿勢は、学習意欲のあらわれとして大切にしたい。

### (2) 練習について

場面や状況にあった文の作成にあたっては、生徒各自に、和英・英和辞典を活用させた。練習の最中に、新たに文を付け加えたり、修正するグループもあった。付け加えられた文のパターンは、次の通りである。

- ・最初にあいさつを入れる。
- ・別れのあいさつをいれる。
- ・スポーツ名や場所をかえる。
- ・How about you?などと聞き返し、話を発展させる。

練習においては場面設定での話し合いが具体的であればあるほど、短時間で効率のいい練習ができるようである。



### (3) 発表について

発表は、1グループにつき、移動や準備を含めて1～2分である。進んで発表しようとする意欲的な取り組みが多く見られた。発表後に、聞いている生徒から「全体的な感想」を最低でも一人から聞くと、1発表につき4分が必要となる。発表者は級友や教師からのコメントを、心配しながらも楽しみにしているようである。このような発表に対するフィードバックの場を大切にしたい。

次は、「いいとこさがそうカード」にあった「全体的な感想」のコメントの抜粋である。